



## 2015 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ第1戦

### 鈴鹿2&4レース

TOHO Racing with MORIWAKI レースレポート

JSB1000クラス #104 山口 辰也

4月18日(土曜日) 天候: 薄曇り 路面: ドライ

公式予選/2' 07" 202 5番手

4月19日(日曜日) 天候: 曇り 路面: ドライ

決勝/7位 (20周)

開催地: 三重県・鈴鹿サーキット

入場者数: 51,000人 (土・日合計)

新たなシーズンがスタートした。TOHO Racing with MORIWAKIとしてJSB1000クラスを戦うのは今シーズンで4年目。Honda CBR1000RRのキット車両というマシン面での大きな進化はないが、昨年よりコラボレーションしているKYBサスペンションを始め、多くのパーツメーカーのご協力もあり山口は着実にタイムを縮めてきた。ライバルメーカーは新型マシンを投入し、速さを見せていたが、これまで培ってきたデータを元にTOHO Racing with MORIWAKIは、優勝を目指して臨んでいる。

今年も開幕戦は4輪の国内最高峰スーパーフォーミュラとの2&4レースとなった。金曜日は1回目の走行直前に雨が降り始めウェットコンディションでスタート。セッションが始まるころには雨は止み、走る度に路面は乾く方向だった。このセッションで山口は2分22秒085をマークし7番手につけた。午後の走行は天気も回復しドライコンディションで行われ2分08秒170で6番手となっていた。今年の鈴鹿2&4レースも55台が出走し、レベルの差も大きいため、公式予選は、2グループに分かれるため半数となるがクリアラップを取ることは至難の業。うまくタイミングを取ることも運の一つとなる。



迎えた公式予選。快晴のもとで行われ山口は、Bグループでのタイムアタックとなった。徐々にペースを上げながらマシンの状態を確認。一度ピットインし、タイヤを交換して再びコースイン。タイムアタックに入り自己ベストとなる2分07秒202をマーク。Bグループで2番手となったが、総合では5番手となりセカンドロウからスタートすることになった。

決勝日は朝から雨が降り出しウォームアップ走行はウエットコンディションとなる。路面は乾いていく方向だったが天気予報は目まぐるしく変わっていたこともあり決勝がウエットとなる可能性も高かったため、しっかりウエットのセットを確認。2分19秒422をマークして4番手につけていた。

決勝が始まるころには天候は回復。路面はドライコンディションとなり、予定通り20周でレースは争われた。山口は好スタートを見せると、ゼッケン1をつける中須賀選手の前に出て1コーナーを4番手でクリア。そのままトップグループにつける。前日の公式予選で確認したタイヤで臨んでおり、いきなり2分07秒台で走るトップグループにも対応できていた。3周目には、レース中の自己ベストとなる2分07秒472をマークしていた。しかし、その直後から予選とは違うフィーリングが出てしまいペースを上げられなくなってしまう。

その後、トップグループに離されてしまい、単独5番手を走っていたが、その後方からペースを上げたライダーが追い上げてくる。中盤に2台にパスされて7番手に後退。レース終盤には、さらに後方から追い付いてきたライダーがおり、最終ラップの攻防を戦い抜き山口は7位でゴール。コンディションが変わったためか、前日まで、よかったフィーリングが消えてしまっただけに悔しい結果となってしまう。しかし、問題はハッキリしているだけに、連戦となる次戦オートポリスこそトップを狙いたいところだ。



#### JSB1000 ライダー/監督 山口辰也コメント

「予選とフィーリングが変わってしまいペースを上げられずに悔しいレースになってしまいました。3月の頭に昨年の最終戦以来でJSB1000マシンに乗ったのですが、しっかりトレーニングをしてきたこともあり、すんなりと乗れました。そこから戸井田チーフメカを始めKYBさん、ブリヂストンさんとマシンを仕上げて来ました。今シーズンは、さらにレベルが上がり厳しい戦いになることが予想されますが、レースになれば勝負できるチャンスはあるはずです。予選でも決勝でも自己ベストを更新できましたしプラス要素はありました。今年も多くの方の応援のおかげで、こうしてレースに参加することを感謝いたします。すぐに第2戦オートポリスがありますが、さらに上を狙って臨みます」

#### チームメカニック 戸井田剛コメント

「今回の目標は、まずは6秒台に入れる事でした。トップグループについていけるセットアップを目指して、昨年からアップデートしていったパーツの確認や、新しく試みているサスペンションセッティングに時間を費やしました。その結果、予選ではチームベストの7秒202までタイムを縮め、5番手に入ることができました。タイヤも決勝で使うタイヤでのタイムで、予選中も7秒台で走っていたので、不安もなく決勝に臨みました。決勝当日は、朝からの雨の影響と、路面コンディションの違いから上手くタイヤを使うことが出来ずラップタイムを安定させることが出来ませんでした。次回はラップタイムを安定させるために、どんな条件でも走れるセットアップを進めていきたいと思います」

#### 総監督 福間勇二コメント

「まずは、今シーズンも最高峰クラスに挑むことができますことを、御協力、御協賛いただいておりますスポンサーの皆様、そして、いつも応援してくださっている皆様に感謝を申し上げます。今シーズンは激戦が予想されるJSB1000クラスです。今回は悔しい結果となりましたが、次戦もチーム一丸となって挑む所存でございます。何卒宜しくお願い申し上げます」



株式会社 TOHO  
TOHO Racing with MORIWAKI  
担当 野口